

## 学位論文審査の概要

博士の専攻分野の名称 博士（医学） 氏名 伊藤 智城

審査担当者	主査	教授	生 駒 一 憲
	副査	教授	佐々木 秀 直
	副査	教授	實 金 清 博
	副査	教授	吉 岡 充 弘
	副査	教授	有 賀 正

## 学位論文題名

てんかん症例における診断及び治療決定に対する脳磁図検査の有用性

脳磁図はてんかん外科への適応となる患者の術前検査として有用とされ活用される中、今回、申請者は外科症例のみならず、難治な経過を辿るてんかん症例に対し脳磁図検査を実施し、脳磁図が診断や治療にどのような変化を与えたかを100例のてんかん症例に対して評価し、かつ他の神経画像との整合性についても評価を加え発表をした。そして新皮質てんかんでは他画像検査との整合性が高く、外科的治療により発作の改善がみられたこと等を示した。

学位審査に際し、副査：佐々木秀直教授より脳磁図検査にててんかんの病型が変更した例に対し、どのような根拠から病型が変化したのかとの質問があり、申請者は具体例を挙げて説明した。副査：實金清博教授より、脳磁図のてんかん焦点をみつける検査機器として感度・特異度について質問があり、申請者は新皮質てんかん群についての説明を追加し回答した。副査：吉岡充弘教授より本研究を行うにあたっての脳磁図の陽性所見の定義について質問があり、申請者は診療録等を総合的に参考にして独自に決定したと回答した。主査：生駒一憲教授より、脳磁図検査の結果を参考に薬剤を調整した例について質問があり、先行研究の例を挙げ追加説明した。副査：有賀正教授よりこれまでの脳磁図の先行研究と比較して本研究での陽性所見出現率が低い、その理由をどう考えるか、また今後の脳磁図の展開について質問があった。前者に対しては研究対象群の違いによることを説明し、後者に対しては、本研究のように特発性局在関連てんかんへの利用や、空間フィルター法などの脳磁図の解析法の利用により全般てんかんへの有益性が評価される可能性があることを説明した。

審査員一同は、これらの成果を高く評価し、大学院課程における研鑽や取得単位なども併せ申請者が博士（医学）の学位を受けるのに十分な資格を有するものと判定した。